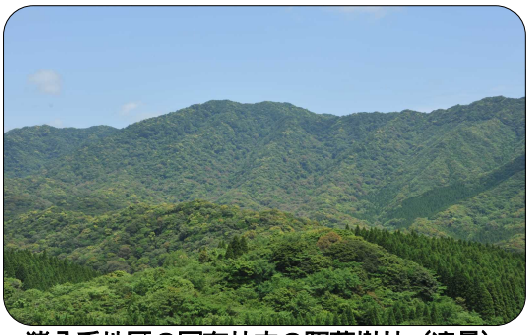
広報 九州
国民の森林・国有林
平成30年9月10日
（2018年）
No.1759
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁2－7
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

日南市で保護林管理委員会及び現地検討会を開催

8月23日から24日にかけ、宮崎県日南市において保護林設定予定地の現地検討会及び第1回保護林管理委員会を開催しました。


猪八重地区の国有林内の照葉樹林（遠景）

【日南市で現地検討会を開催】

1日目の現地検討会では、台風20号の影響による雨天のため、猪八重（いのはえ）地区の保護林設定予定地の視察はできなかったものの、レクリエーションの森「猪八重の滝風景林」において猪八重地区の照葉樹林の現状を確認しました。

その後、近隣の三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林を視察し、宮崎南部森林管理署の郷原森林技術指導官から保護林の概要や飫肥林業の歴史について説明を行いました。

さらに、世界で唯一のコケ植物専門の研究機関である服部植物研究所（日南市飫肥）を訪問し、研究所の概要及び猪八重渓谷に生育するコケ植物の特徴についてお話を伺いました。

最後に、宮崎南部森林管理署に移動し、事前にドローンで撮影した猪八重地区の照葉樹林等の映像をご覧頂きました。

委員による現地検討会の様子

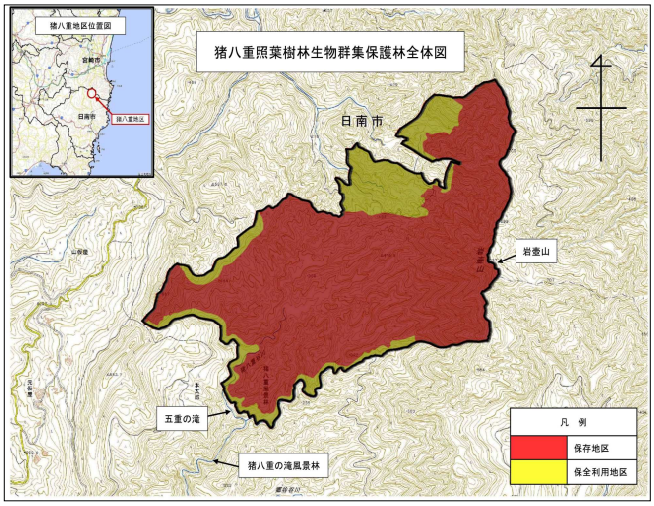
【保護林管理委員会を開催】

2日目は、第1回保護林管理委員会を日南市内のホテルの会議室で開催しました。

冒頭、原田隆行九州森林管理局長から「保護林制度は国立公園制度に先駆けて大正4年に創設され100年以上の歴史があり、国有林だからこそ維持できた保護林も多いと考えている。生態系の保護は難しいが、科学的なデータに基づき検証しながら、貴重な自然を国民の財産として後世に残していくため真摯に取り組んでいきたい。本日は、昨年度から継続審議となっている猪八重地区の保護林設定のほか、保護林におけるシカ被害対策など様々な課題について、忌憚のない意見をお願いしたい。」との挨拶があり、その後「猪八重地区の保護林設定」「やんばる森林生態系保護地域の森林基礎調査及び保全管理計画の作成」「平成29年度保護林モニタリング調査箇所の管理方針書（案）の検討」について順に審議を行いました。

保護林管理委員会での模様

「猪八重地区の保護林設定」については、昨年度の審議内容を踏まえ、櫛状に入り込んでいるレクリエーションの森の一部を保護林に編入した見直し案を提案し、了承されました。その際、「保護林設定区域とレクリエーションの森の境界部分である沢については、入込み者による希少植生への影響が懸念されることから、自然保護を呼びか



ける看板を設置する等の注意喚起を行う必要がある。」との意見が出されました。

「やんばる森林生態系保護地域の森林基礎調査及び保全管理計画の作成」については、「森林基礎調査では、調査地へのアクセスを考慮したためか、保護林区域の中心部に調査地が設定されていないため、環境省の調査結果等を活用し補完すること。」「保全管理計画には、著名な固有種のみではなく、様々な固有種の生息状況を明らかにするとよい。」などの意見が出されました。

「平成29年度保護林モニタリング調査箇所の管理方針書（案）の検討」については、「シカ被害対策については、被害がまだ発生していない箇所での予防的な対策が重要であり、優先的に実施すべき。」「九州中央山地生物群集保護林は、九州の自然を代表する保護林であり、重点的にシカ被害対策を実施して欲しい。」との意見が出されました。

九州森林管理局としては、今回いただいたこれらの意見を踏まえ、保護林を適切に管理していくこととしています。

※本管理委員会の審議概要は、九州森林管理局HP（キーワード：保護林管理委員会）でご覧になれます。（担当＝計画課）

平成30年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループ会議の開催

7月29日・30日、今年度第1回目の屋久島世界遺産地域科学委員会と同委員会のヤクシカ・ワーキンググループ（WG）の会議が屋久島町環境文化村センターにおいて開催されました。

冒頭、事務局を代表して九州森林管理局井口真輝計画保全部長から「屋久島が世界自然遺産に登録されて25年目となる。この間、登山者の急増による登山道の荒廃やトイレの問題が大きな課題となるとともに、ヤクシカによる植生への影響が顕在化してきた。また、高層湿原の保全対策については、これまでの取組成果を踏まえつつ、早急に取り組まなければいけない。適切な管理に向け忌憚のないご意見を賜りたい」と挨拶。

井口計画保全部長より挨拶

続いて、屋久島町岩川浩一副町長から「世界自然遺産地域の保全や活動にご尽力頂いていることに感謝する。屋久島の貴重な自然が次世代へ価値が損なわれることなく引き継がれるよう、町政として取り組んで参りたい。」との挨拶がありました。

意見を述べる各委員

委員会では、屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況、各モニタリング調査の結果、高層湿原の保全対策のほか、前日に開催されたヤクシカWGの検討内容の説明等を行い、委員からは、屋久島世界遺産地域管理計画、モニタリング項目や調査データの公表の方法を見直すべきなどの意見が出されました。さらに、高層湿原の保全対策に関しては、水の収支や地下水位の変動の調査、歩道や木道が流水に与える影響、湿原とヤクシカの関係性などについてアドバイスをいただき、詳細については、新たに設置する「高層湿原保全対策検討会」において議論を進めていくこととしました。

また、前日に開催されたヤクシカWGでは、環境省による西部地域におけるヤクシカ密度操作実験の検討、林野庁によるヤクシカの生態系管理目標の策定等について説明を行い、毎年かなりのヤクシカを捕獲しているが、これは繁殖による増加分に過ぎず、生息数の目標達成のためにはさらに捕獲圧を上げる必要があることを共通認識とするとともに、西部地域や奥岳のヤクシカ対策目標設定後の評価が重要であるなどの意見が出されました。

第１回屋久島世界遺産地域科学委員会の様子

最後に、九州地方環境事務所河原武統括自然保護企画官から「科学的知見に基づく助言をいただき感謝申し上げる。高層湿原の適切な保全・管理、ヤクシカの生態系への影響、山岳部の利用のあり方などについて、今後も関係行政機関が連携を図りながら対処していくので、引き続きご指導ご助言を賜りたい。」との挨拶があり、委員会を終了しました。

（担当＝計画課）

「しっとっと?国のお仕事」で国有林ブースを設置する

8月1日・2日、熊本地方合同庁舎において、九州農政局主催の夏休み特別イベント、「しっとっと?国のお仕事～夏休み見学デー～」が開催されました。

このイベントは、小学生を対象に国の仕事の展示や体験メニューを通して、参加した親子に楽しみながら理解を深めてもらうこ

来場者で賑わう九州森林管理局のブース

オリジナルもっくんの完成

とを目的としたイベントです。

九州森林管理局や九州地方環境事務所など11機関が協力しており、会場には2日間で合計1069人の来場がありました。

九州森林管理局のブースでは、森林・林業に関するパネルの展示、パンフレットや「お山ん画」の配布、「山の日」のPRや桜の小枝を使ったストラップ「もっくん」の木工教室を実施しました。ブースには2日間で約250人の親子が訪れ、230個のもっくんが作られるなど、大変好評でした。

ブースを訪れた子ども達は、パンフレットや「お山ん画」を読んだり、親子でもっくん作りに一生懸命になり、満足げな様子でした。また、保護者からは森林・林業について質問があり、親子で楽しんでいただくと共に森林の働きと国有林の仕事に理解を持っていただくことができました。（担当＝技術普及課）

監物台樹木園において「森の塾」を開催

8月6日、監物台樹木園において、熊本県内の小学校教諭5名が参加し、第22回「森の塾」を開催しました。

「森の塾」は、森林に対する関心やニーズが多様化する中、森林の役割や利用などについて教職員の方々に理解と知識を深めていただくことで、学校での森林環境教育に役立ててもらうことを目的に毎年実施するものです。

最初に、「木をつかおう・森林をしろう」と題して、森林の役割と多面的機能について説明を行いました。

また、「九州森林管理局における低コスト造林の取組」や「シカ被害の現状と対策」について説明しました。

午後からは、園内散策、植物鑑定に加えて、木工品づくりを行い、檜（ヒノキ）を使ったマイ箸を作製しました。鉋（かんな）がけの際には、削りかすと共に出てくる檜の香りに「良い香りがする！」と五感を使って楽しんでいただけました。

樹木の説明を聞く参加者

植物鑑定の様子

参加者からは「森林の役割や九州森林管理局の取組などを知ることができた」、「すぐに学校で使える資料があり、ありがたかった」などの声をいただくことができました。

今後も森林環境教育を推進するため、継続して取り組んでまいります。（担当＝技術普及課）

シュロの葉のバッタ作りに夢中（盈進小学校森林教室）

【北薩森林管理署】6月2日にさつま町内において、さつま町立盈進（えいしん）小学校6年3組の児童、保護者等約54人を対象に森林教室を開催しました。最初に、当署の職員がクイズ形式で森林の役割等の説明をした後、前田三文北薩森林管理署長が、北薩地方に自生する早生樹のチャンチンモドキの種子を参加者全員に配り、5つの穴から発芽する不思議な種子を、各自ポットに蒔き、育てながら観察してもらうことにしました。

シュロの葉でバッタ作りに挑戦

その後、木工教室では「本立て」と「シュロの葉のバッタ」作りを行いました。特にシュロの葉のバッタ作りでは、保護者の方が夢中になり、子供達と出来映えを競っていました。子供達は自分で製作した物に満足げな表情で、後日、寄せられた手紙には、「貴重な体験ができてよかった。森林の大切さを知ることができた」などの感想が寄せられました。

鮑田中学生等による法人の森林「鮑田の森」の観察・下刈作業

【熊本森林管理署】7月1日、南阿蘇村久木野の分収造林契約地「鮑田の森」において、鮑田地区青少年健全育成連絡協議会、鮑田の森を育てる会による総勢86名（うち、熊本市立鮑田中学生約40名）の参加のもと、第19回目となる観察・下刈作業が行

作業開始前の集合写真

われました。

同協議会等は、青少年の健全な育成、明るく住みよい飽田の地域づくりなどを図ることを目的とし、毎年「飽田の森」において保育活動等に取り組んでいます。

当日は、曇り空で絶好の作業日和、植栽木も良好に育ち、約1時間半ほどかけて林内の探索や生い茂った雑木の刈払いにいい汗を流し、綺麗になった林内に達成感を味わいました。

また、今年も整備した「飽田の森」において、恒例となる飽田中学校の新3年生による記念植樹を予定しています。

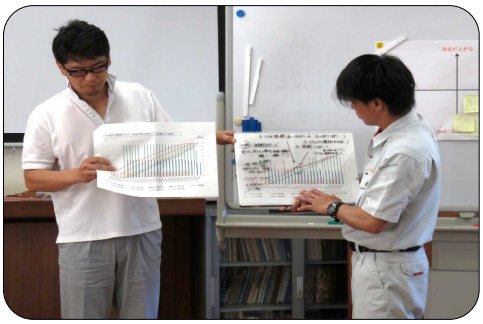
木材の生産性向上勉強会を開催

【宮崎森林管理署】 7月23日、宮崎森林管理署会議室において当署管内の9事業体13名を対象に「生産性向上に向けた日報管理の取組み勉強会」を開催しました。

これは、宮崎署管内で森林整備事業の請負実績がある事業体から生産性の向上に向けた取組みについて勉強する機会をとの要望を受け開催したもので、九州森林管理局及び宮崎森林管理署職員が講師となりました。

勉強会前半は、平成29年度に九州森林管理局全体で取り組まれた日報管理の結果や平成30年度における本取組の概要を説明し、後半は事業体を3班に分けて生産性の検討用に準備された例題を使用してのグループ討議を行いました。

勉強会形式による討論



班ごとの発表の様子

グループ討議では、当署に在籍する森林総合監理士（フォレスター）がグループ討議の進め方や検討方法などをアドバイスするなどサポートを行い、人員配置や功程の変化などを分析したり、何をどのように改善すべきかなど多岐に渡る討論が行われました。

その後、班ごとの発表があり、経営者視線での分析や作業員ならではの発想に基づく意見が出されるなど、改めて生産性について考え直す良い機会となりました。

今後も、引き続き生産性向上に向けこのような勉強会形式での開催、或いは事業体の要望に合わせ個別指導・助言を行うなどの取組みを進めていくことが重要と考えています。

くじゅう地区高山植物保護対策協議会を開催

【大分西部森林管理署】 平成30年7月24日、九重町役場で、当署が事務局を務めるくじゅう地区高山植物保護対策協議会を開催しました。協議会は、くじゅう地区の高山植物を保護し、自然環境の保全を図るため、関係機関相互の連携を密にして、地域ぐるみの高山植物保護活動を展開し、くじゅう地区の自然保護に資することを目的としています。

当日は、自治体、警察署、自然保護や観光に関する団体、くじゅう地区の国有林を管轄する熊本、大分、大分西部の各署から担当者等が出席して、日野康志会長（九重町長）の進行で議事を行い、平成30年度の事業計画等が承認されました。今後、高山植物保護を普及啓発するパトロールや案内標識の設置、増加している海外からの登山客にも対応する多言語のしおりの作成を行うほか、くじゅう地区を代表する貴重な高山植物であるミヤマキリシマの刈り出し作業や自然公園クリーン活動などに参画していくこととしています。

協議会の総会の模様

協議会が設置した看板

木工工作に夢中（盈進児童クラブ森林教室）

【北薩森林管理署】 7月27日、同町、盈進（えいしん）児童クラブで夏休み中の児童37人を対象に森林教室を開催しました。

今回の参加児童は小学校一、二年生が主体で、最初に、森林についての紙芝居や森林のクイズ

作った本立てを前にみんなで記念撮影

を行うと児童達は積極的に挙手をして、答えていました。

その後は、生徒全員でヒノキの枝を利用した「もっくん」と「本立て」作りを行いました。当署職員と児童達が力を合わせて製作し、釘を真っ直ぐに打ち込むのに苦労しながらも終始笑顔で取り組んでいました。最後に子供達の絵が貼り付けられた手作りのうちわがお礼として職員全員にプレゼントされました。約2時間のイベントでしたが、児童達にとっては森林の役割や大切さを学ぶとともに木工工作を通じて木とふれあう一日となり、夏休みの思い出の一コマになったようです。

地域創生について日南市長が講演

【宮崎南部森林管理署】当署では、地域創生事業で全国に注目を集めている﨑田恭平日南市長にその取り組みについて講演を行っていただきました。

講演される﨑田日南市長

講演会の様子

﨑田市長から「創客創人」（様々な分野において、今あるもの、資源の中から、人々が望む価値を見出し、それを実現する製品やサービスなどを創り出し、「新しい需要＝客」を創り、その客を幸せにする仕組みを創れる人財を育てること）を市全体で共有し、市民一人ひとりが力を高めていくことで、活力ある産業、市の明るい未来を目指していくこと。

また、シャッター化していた油津商店街をなんとかすべく、ここに20商店を招致するという任務で市は専門家を公募し、結果、4年間で29店舗が開店し、商店街の賑わいを取り戻したこと、ここ2年間で12社のIT企業が進出し100人の雇用が生まれたことなど、全国的に注目を集めている先導的な取り組みを紹介していただきました。地域の方々に「宮崎南部森林管理署が日南市にあって良かった」と思っていただけるように日南市の地域創生に少しでも貢献できるよう努めていく考えです。

「屋久島森の塾」を開催する

【屋久島森林生態系保全センター】当センターと屋久島森林管理署では、森林環境教育を行う島内小学校の教職員を対象に、世界自然遺産地域を有する屋久島の森林・林業について、少しでも知識を深めて頂くため、屋久島町教育委員会との共催で、「屋久島森の塾」を当センター会議室において、7月31日に実施しました。

参加教職員は4名で、まず進行役の永山博美自然再生指導官から、「木の名前当てクイズ」と称してアイスブレイクから入り、場を和ませてスタートしました。古市真二郎所長からは挨拶に続き「屋久島国有林における林野庁の取組」について、奥村克生態系管理指導官からは「屋久島の森の不思議・発見！」について、渡邉昭博生態系管理指導官からは「ヤクシカ対策」について、講義を行い意見交換しました。

その後、永山自然再生指導官から「ゲームで実体験！シカ被害から森を守れ！」ということで、シカが増えすぎると森の動植物にどう影響するのか、森をどう守ればよいのかについて、カードゲームで学習しました。

午後からは、屋久島森林管理署の廣田俊之森林整備官から、土理木の歴史と活用等について講義を行い意見交換した後で、土理木と地スギを使ったストラップづくりなどを体験しました。

屋久杉の重さ、香りを確認

ストラップづくりの様子

参加者からは、「林野庁の取組がよく理解出来た」や「ゲームやストラップ作りなど楽しかった」「来年も参加したい」「沢山の人に参加して貰いたい」などの感想が聞かれ、次回に繋がる有意義な森の塾となりました。

木工体験で国有林及び木材の利活用をPR

【熊本森林管理署】7月22日、熊本県菊池市の竜門ダムエントランス広場において、班蛇口湖活性化推進協議会主催による「2018竜門ダムフェスタ・感謝祭」が開催され、約500名の市民や親子連れが集まり、当署からも11名の職員が参加し木工体験コーナーで国有林及び木材の利活用等をPRしました。

フェスタ当日は天候に恵まれ、連日の気温上昇から熱中症が心配される状況でしたが、オープニング前から多くの親子連れや幅広い年齢層の方々が訪れまし

初めての体験丸太切り

た。

木工体験コーナーでは、職員指導のもと本立て作り、丸太切り、木製ペンダント作りを実施しましたが、猛暑のなか参加した多くの親子は汗を流しながら木工体験を楽しみました。

本立て作りに汗を流す親子

体験された親子からは、「丸太切りや本立てを作ったのは初めてで大変だったけど、とても楽しかった」、「森林管理署って、どんな職場ですか」など、参加された方々とふれ合いながら国有林や木材の利活用をPRしました。

当署では、今後も山や森林について興味を持っていただけるよう、機会づくりに努めていきます。

林業集落跡現地研修会を開催する

【屋久島森林管理署】8月1日に、屋久島町内の教育関係者を対象にして屋久島の林業遺産について現地を見学して理解を深めてもらい、中学生や高校生の授業の中での活用を検討してもらうことを目的に、国立歴史民俗博物館の柴崎茂光准教授と当署関係者により屋久島林業集落跡現地研修会を開催しました。

集落跡地の説明を受ける参加者

当日は、屋久島高校から5人の先生方が参加され、柴崎准教授を講師として宮之浦川上流域にある旧宮之浦製品事業所の事務所跡やその周囲に広がる集落跡、続いて宮之浦小学校岳分校跡、森林軌道跡等を歩きながら説明し、最後に森林軌道の終点であった現在の屋久島環境文化村センター（旧宮之浦貯木場跡）で、当時の船への木材積込み作業の状況等を説明しました。

参加された先生方からは、屋久島は世界遺産の島としての環境面だけでなく、昔から林業の島として栄えてきた歴史を理解出来たことや、今後環境コースの生徒の課題研究のテーマとして林業遺産を検討したいとの意見等を頂きました。

当署としては、今後とも関係機関や研究者と連携しながら林業遺産の保全管理に努めるとともに、中学校や高校などで教育的な活用が進められるようにしていく考えです。

レクリエーションの森保護管理協議会総会を開催

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】8月3日に、屋久島町役場宮之浦支所会議室において、本年度の屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の総会が開かれ、当署から川畑充郎署長及び保全センターから古市真二郎所長、永山博美自然再生指導官が出席しました。

総会では、屋久島町の荒木耕治町長の司会進行により川畑署長の挨拶の後、平成29年度の活動実績及び決算報告、平成30年度の活動計画及び予算案等について審議され原案のとおり了承されました。また、平成29年度の屋久島自然休養林（ヤクスギランドと白谷雲水峡）の入林者数が報告され、全体で前年度比約1割増の約176千人で、その内の外国人入林者数は前年度比約6割増の約20千人となっており、約11%は外国人で年々増加しているとの報告がありました。

挨拶する川畑署長

現在レク森保護管理協議会では、レク森の益々の活性化を図るために検討会を設置して協議を進めており、これまでに多言語タグ設置、ヤクスギランド「天文の森コース」開設、園内のガイディングなど新たな取組が開始されています。当署及び保全センターとしては、引き続き関係機関と連携・協力して、屋久島自然休養林等が屋久島観光の中心になるように取り組んでいく考えです。

飫肥分収造林組合連合会の総会で署長が講演

【宮崎南部森林管理署】8月3日、日南市において飫肥分収造林組合連合会の総会が約50名の参加のもと、開催されました。

総会では、来年度に元号が変更になることから、それを記念して連合会として5ヘクタールの分収造林を新たに創設することなどが全会一致で決まりました。

その後、安達寛己宮崎南部森林管理署長が「現在・過去・未来」と題して講演を行いました。

総会にて講演する安達署長

講演の冒頭に、今年、平成30年（2018年）は明治元年（1868年）から起算して満

１５０年の年に当たることを受けて、政府全体として広報を行っていく中で、林野庁で作成した①明治期の国有林野事業について、②林政年表、③明治期の治山事業についての展示パネルを紹介しました。

また、現在、全国の国有林で行われている各種取り組みや当署の低コスト造林の取組み、飫肥営林署の昭和30年代の木馬運材やトラック運材、森林鉄道や堀川運河を利用した筏による運材の状況、更には、ヨーロッパ及び北米でのＣＬＴを使用した高層建築物などを紹介しました。参加者からは、日本も将来的にＣＬＴで高層建築物が建設されることを期待したいとの声がありました。

当署としては、今後もこのような機会を通じて森林・林業・木材産業の状況を普及していく考えです。

地域の安全確保に向けた森林の情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定

【宮崎北部森林管理署】 ８月６日、日之影町長と宮崎北部森林管理署長との間において「地域の安全確保に向けた森林の情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」を締結しました。

調印に先立ち、佐藤貢町長から「西日本豪雨などの近年の異常気象による災害が危惧される中、今回の協定を大変うれしく思う。今後とも宮崎北部森林管理署と連携を図りながら地域住民の安全・安心が得られるよう努めていきたい」との挨拶がありました。

また、黒木慶次郎宮崎北部森林管理署長からは、「重大な森林災害時には復旧に向けた人的・技術的支援を行う。今後も、地域の安全な生活の確保に向けて、日之影町と連携・協力を図っていきたい」と挨拶がありました。

この協定は、日之影町の森林整備計画の作成や、異常気象等により重大な森林災害が発生した場合の復旧に向けた技術的支援等について盛り込まれており、長期的な森林の育成に向けての連携・支援を行っていくこととしています。

協定調印後の記念撮影

日南振徳高校生が林業体験を学習する

【宮崎南部森林管理署】 ８月７日、宮崎県立日南振徳高校２年生16名を対象に三ツ岩オビスギ遺伝資源保存林において、林業体験学習を行いました。

この体験学習は、次代の担い手である高校生に森林・林業・木材産業への理解を深めてもらうため、毎年、宮崎県林業労働機械化センターの依頼を受けて実施しているものです。

平生地域技術官の説明を受ける高校生

当日は、黒荷田森林事務所の平生竜地域技術官から飫肥林業の歴史、飫肥スギの特徴などについて、看板やパンフレットを用いて説明を行い、その後林内に移動し、１４０年生のオビスギを見学しました。

生徒たちは、オビスギを直接触ったり、４人がかりで囲むなどして木の大きさを実感していました。

今回参加した高校生の中から宮崎県の林業を担う人材が育つことを期待して、林業体験学習を終了しました。

林業体験学習後の記念撮影

ゴイシツバメシジミ自然観察会を開催する

【熊本南部森林管理署】 ８月８日、「山の日」の記念イベントとして、球磨郡水上村の国有林に生息する国の天然記念物の「ゴイシツバメシジミ」の自然観察会を市房山キャンプ場周辺の市房国有林で開きました。

ゴイシツバメシジミは、熊本県の水上村と山都町の照葉樹林だけに生息する体長２センチメートルに満たない小さなチョウで幼虫の餌は着生植物のシシンランです。

参加者は、水上村の岩野小学校と湯山小学校の小学４年生から６年生までの26名で、三枝豊平九州大学名誉教授と杉本美華専門研究員が講師を務め、室内で生態等を勉強したあと、屋外の観察会に出発しました。

シシンラン移植木付近の観察会の様子

観察場所へ到着とほとんど同時にゴイシツバメシジミを発見し、シシンランの移植木付近を双眼鏡でチョウの行方を追ったり、三枝名誉教授の手の指に止まったチョウに歓声をあげるなど、参加した子供たちは興味深そうに見たりカメラに収めていました。

今回の観察会では、絶滅寸前のゴイシツバメシジミが複数見

られるなど天候等のコンディションもよく、子供たちにとっても貴重な体験となる場を提供でき有意義な一日となりました。

国産材活用による地方創生トップセミナーイン九州が開催される

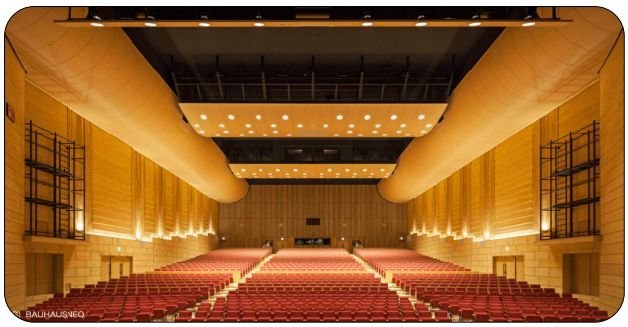
【長崎森林管理署】7月26日、長崎市において、一般社団法人日本木造耐火建築協会主催の「国産材活用による地方創生トップセミナーイン九州～都市の木造化への挑戦～」が開催され、当署職員も参加しました。

九州局井口真輝計画保全部長が来賓として挨拶をされ、日本住宅木造技術センターの古久保英嗣理事長の基調講演後、国産材を活用した先駆的な事例報告等が行われました。ここに事例報告の一部を紹介します。

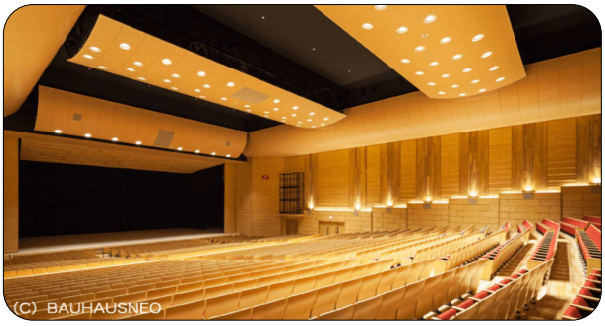
山形市南陽市の南陽市文化会館（シェルターなんようホール）は平成27年10月に開館し、同年12月には世界最大の木造建築ホールとしてギネス世界記録Rに認定されています。ホール内は世界最高峰のバイオリンの中にいるような音響空間であり、これは完全な木造ホールによって実現されたもので、実際にコンサートを行った有名アーティストから音響の良さを称賛されたことから、他の有名アーティストも演奏を希望するなど芸術文化の町になりつつあるということが紹介されました。

特に建築部材には地元南陽市の杉材が活用されており、地元の森林・里山の機能回復といった課題にも寄与するとのコンセプトで建設されたことから、地元への経済効果も大きく、また、大規模木造建築物による効果としてホール内の温度、湿度も安定し、光熱費は当初の見込みより約7割削減されているということでした。

この大型木造建築物による「木の良さの見える化」が進み、木を使用することの良さが理解され、公共建築物等の木造化がさらに進むことを期待したいと思います。



シェルターなんようホール内（ステージから）



シェルターなんようホール内（左後方から）

シェルターなんようホール内（右側面から）

中堅教諭等資質向上研修（社会体験研修）の受け入れ

【熊本森林管理署】8月9日から10日に亘り、合志市が実施している中堅教諭等資質向上研修（社会体験研修）として合志市立合志中学校から1名を受入れ、当署会議室及び菊池渓谷等の現場において実施しました。

この研修は、3つのコースから1コースを選択し地元行政機関や民間企業等へ研修の受入れを依頼するもので、合志中学校の簑毛祐子教諭は「自然環境理解コース」を選択し、当署での体験活動を通して自然環境保護等のあり方を学び、今後の教育活動に活かすことを目的に研修を受講しました。

初日は、職場体験座学として署長挨拶や管内概要及び国有林の現状等の説明を受けるとともに、現地学習としてレクリエーションの森（くまもと自然休養林）である菊池渓谷を菊池森林事務所森林官等の案内で体験しました。

二日目は、社会体験現地研修として内田及び南阿蘇森林事務所森林官等の案内で間伐実行箇所、北向山治山事業実行箇所、低コスト造林試験地、吉無田スギ希少個体群保護林を体験しました。

簑毛教諭は、「この職場体験で学んだ情報を、色々な機会にPRしたい。また、日本の代表樹種であるスギとヒノキの判別ができるようになったので、子供達に自慢したい」との感想を残して二日間の体験を終えました。

現地説明を受ける簑毛教諭（左）

「霧島山モンテフェス2018」が開催される

【宮崎森林管理署都城支署】8月11日山の日に、「霧島山モンテフェス2018」が、えびの高原で開催されました。

「霧島山モンテフェス」は、山の日を記念して平成28年から毎年開催しているイベントであり、当支署も木工体験コーナーのブースで参加しました。

当日の天候は雨との予報でしたが、幸いにも天候に恵まれ晴れとなり、約8万人の来場者で会場は大賑わいでした。

当支署の木工体験コーナーでは、丸太切り体験と木工人形の「もっくん」作りを行いました。丸太切りを体験した子どもたちは、慣れないノコギリに苦戦しながらも一生懸命に丸太切りに挑戦し、切った丸太の輪切りに焼き印を付けて手作りのコースターにしました。「もっくん」作りではカラフルな毛糸を使い、皆思い思いの作成に力を入れていました。

木工体験コーナーのブースで丸太切り

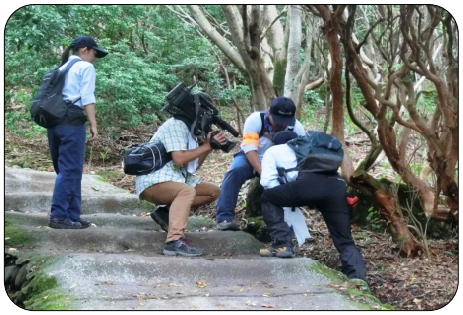
また、職員は法被を着用し、ブースのテントにのぼりを設置し、山の日のPRと、明治150年記念のパネルで国有林の歩みを紹介しました。この日は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」一日となり、とても良いイベントとなりました。

くじゅう地区高山植物保護対策協議会を開催

【大分西部森林管理署】平成30年8月17日、当署が事務局を務める「くじゅう地区高山植物保護対策協議会」の活動として、久住山の登山道で高山植物保護のためのパトロールを行いました。

パトロール活動の様子

当日は、協議会の会員である九重の自然を守る会、九州林産株式会社、九重町役場、環境省、大分・大分西部両森林管理署から、合わせて22名が参加し、2班に分かれて、大分県九重町の牧ノ戸峠から久住山と扇が鼻に至る登山道を往復しました。行き交う登山客にチラシとしおりを配布し、登山マナーの向上を呼びかけながら、高山植物の生育状況や看板・標識類の状況を点検しました。わずかにゴミが見られたものの、高山植物の盗採は見られず、看板類の設置状況も概ね良好でした。若干、霧がかかったものの、概ね好天に恵まれ、安全にパトロールを実施することができました。また、テレビ局の取材もあり、パトロールの模様は当日夕方のニュースで放映され、活動をPRすることができました。


活動を取材するテレビ局

パトロールは協議会を設置した昭和54年から実施しています。くじゅう連山では、やまなみハイウェイが開通した昭和39年頃にミヤマキリシマの盗採が多発したことから、当時の玖珠営林署や九重の自然を守る会等が高山植物保護や遭難防止のために実施したパトロールを引き継いで実施しているものです。近年は登山マナーも高まっており、盗採はほとんど見られなくなっていますが、大切な自然環境を保全するため、パトロールも継続して実施しています。今年は、秋季の行楽シーズンにルートを変えて実施する予定です。

大分県内の林業分野への就業を目指す人材育成を支援

【大分森林管理署】8月22日、由布市湯布院町に所在する大分県林業研修所及び由布鶴見岳国有林12林班内において、森林整備事業（間伐）の調査方法など、「おおいた林業アカデミー」の6名の研修生に講義を行いました。

この研修は、平成30年4月16日から来年3月中旬までの約1年間、森林・林業や木材産業に関する基礎的知識、林業労働安全、林業への就業に必要な基本的な技能講習（資格取得を含む）、基礎的な森林施業の現地研修などが予定されています。

今回のカリキュラムでは、主催者である「森林ネットおおいた」重本悟理事長から、研修に伴う国有林の活用及び講師派遣依頼を受け、大分森林管理署では、国有林のフィールドを提供し、本署から植薄和彦森林技術指導官、渡辺行直行政専門員、久住森林事務所から上村徳光首席森林官3名の職員を講師として派遣しました。

講義する植薄森林技術指導官

講義では、森林・林業の現状と課題、森林整備（間伐）の重要性、調査方法などを説明、その後、現地において間伐調査の標準地設定の方法について現地実習を実施しました。

現地説明する上村首席森林官

大分県内（大分市、佐伯市、日田市、由布市）在住の研修生の皆さんは、特に直ちに現場で実践する講義項目である、収量

比数による林分密度管理、CS立体図の活用方法などの講義内容を一つ一つノートに記録し、自己研鑽に取り組んでいました。

今後、6名の研修生の皆さんが、1年間の研修を経て大分県内の林業分野に就業し活躍されることを期待しています。

採材検討会及び安全勉強会を実施する

【北薩森林管理署】 8月27日、伊佐市「大口元気こころ館」において採材検討会及び安全勉強会を請負事業体9社、買受け業者2社、森林官等総勢48名が参加し実施しました。

前半に本署担当者から、集造材の注意点及び対応や今後の取り組み、過去の記番毎の規格外割合表等細かいデータも提示しながら説明を行い、その後、各事業体から現場作業における実情として、「立木資材状況が悪いため、システム先の要望どおりにはなかなかいかない」、「4メートルで若干の曲がりがある場合には3メートル直材で採材する」また、買受け業者からは「ハーベスタによる採材の場合はローラー痕が丸太に残り製材品に影響がある」、「4メートルの直材が理想であるが、曲がりが多いと3メートルに採材仕直さなければならない」、「事前に各現場の資材内容について情報が欲しい。3メートルしか採材出来なければ3メートル製材品の販売先を探すなど工夫できる」等の意見が出され有意義な検討会となりました。

後半は、前田三文北薩森林管理署長自ら労働災害の分析や実際にかかり木の衝撃力を実証した動画等による安全講義が行われ、参加者の安全意識の高揚が図られました。

検討会・勉強会の様子

最後に、特別参加いただいた農林漁業信用基金の坂田幹人林業部長から、林業事業体の経営支援に向けた「林業・木材産業信用保証の業務内容について」の説明がなされ会議を終了しました。

地元自治体との連携強化を図る3協定を締結

【熊本南部森林管理署】 8月29日、地元自治体との連携強化を図ることを目的に人吉市と、台風等の被害情報の共有等を行う「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」、シカわなの無償貸与を行う「シカ被害対策協定」並びに人吉市からの提案による「森林・林業における交流の促進に関する協定」の3つの協定を締結しました。

3協定調印後の記念撮影

「森林・林業における交流の促進に関する協定」については、森林の活性化向上に資するため、森林・林業に関する技術開発や人材育成等の情報交換及び共有を行うことを目的として交流を行うものです。

協定書の調印式において松岡隼人人吉市長から「当市はスマート林業に取り組んでおり、市の面積の8割を占める森林の活用は重要な課題である。」また、工藤孝熊本南部森林管理署長からは「人吉市の森林の35%が国有林でもある。地域の林業の成長産業化に向けた取組が加速されることに期待したい。」との挨拶がありました。

当署としては、地元との連携を深めるため、今後も様々な機会を捉え情報交換等を行っていくこととしています。

鹿児島大学生インターンシップで森林官業務を学ぶ

【鹿児島森林管理署】 8月28日から29日にかけて鹿児島大学農学部森林科学コース3年生3名にインターンシップを実施しました。

森林事務所の業務を体験したいとの要望を受け、姶良流域の国有林で吉川慶一地域統括森林官、谷端美菜子地域技術官、松永直人地域技術官及び業務グループ担当職員が講師となり実施したものです。

1日目は、溝辺森林事務所管内の国有林で活用型実施予定箇所の収穫調査を体験、午後からは、当署が契約している活用型請負事業現場において、監督業務について体験しました。講師より発注された事業が適切に実施されているか、監督員として注意する点等について説明があり、学生は熱心にメモを取っていました。

2日目には、前日に調査した国有林の収穫調査復命書を国有林野情報管理システムを使用して作成、午後から霧島森林事務所管内の国有林で境界巡検・巡視業務を石標にコンパスを設置

収穫調査業務を学ぶ

木材生産現場で真剣なメモ取り

する等して体験しました。

最後に署長室において山口輝文鹿児島森林管理署長から学生に対し、森林の重要性、林野庁の業務等について講話を受け日程を終了しました。

今回のインターンシップにより国有林野の業務にさらに関心をもっていただき、3名の学生が当職場を希望されることを期待しているところです。

境界巡検業務を学ぶ

茨城大学の学生が飫肥林業を学ぶ

【宮崎南部森林管理署】8月31日、茨城大学教育学部の甲斐憲次特任教授と学生4名が当署を訪れ郷原寛美森林技術指導官による飫肥林業についての体験学習を行いました。

茨城大学では農林水産業と自然環境などの関連を調査するために40名の学生を6班に分けて日南市全域の環境調査を行っており、その一環として飫肥林業の調査に来られました。

講義では、管内概要を配付し、国有林の役割、飫肥林業の歴史など座学を行った後、三ツ岩オビスギ保護林を案内し、藩政時代から地域とともに森林を守り

講義する郷原森林技術指導官

三ツ岩オビスギ保護林を学ぶ学生

モニターの声

菅　美知子さん

「木をうえよう」

今年7月初めに発生した西日本豪雨で、広島・岡山・愛媛県等多数の府県が甚大な災害に襲われた。連日、命の危険が及ぶという程の猛烈な暑さの中で懸命に復旧作業に取り組む被災者やボランティアの人達を見ると頭が下がる。一日も早い復旧を心から祈るばかりだ。

近頃、想定外の災害が頻発する。集中豪雨や地震・竜巻等々が容赦なく起きて自然災害におびえる生活が続く。それまでは、山や野原や川はいつも身近にあってみんなと一緒に行動する遊び場だった。昔、友達と協力して大きな石を並べて川をせき止めてプールを作って泳いだり、メダカをとったりした思い出がいっぱいある。わらびやぜんまいもとったりした。今は何十年もそんな遊びはしていない。

雨が全く降らないのに、山がくずれ大分県中津市耶馬溪町の人家が土砂にのみこまれた。

昨年7月は九州北部豪雨で大分県日田市は大規模な災害にあった。山頂から一気に流れこんだ土石流でふもとの町がうめつくされた日田市の光景を福岡へ向かう途中の車から見たときは目を疑った。すぐ近くの地域で起きたりするととても不安な気持ちになる。

雨量や風速の記録は更新が続くばかりだ。山がくずれ川が氾濫して家や橋や車がおし流される事がなぜ近頃多くなったのだろうかと思う。

自然の中で、今何が起きてこの先どうなっていくのだろうかと関心を抱くようになったことがモニター応募の動機である。

一人暮らしになった高齢者が山の維持・管理ができなくなったといい、山を土地ごとまとめて手放す人が出てきた。そして手放した人からその後の話を聞くことができた。

伐採した跡地に杉やひのき等の苗が植樹され手つかずの山林が再生されて治山・治水の保全につながり今は安心になって嬉しいという。

全国高校野球選手権大会に大分県から藤蔭高校が出場。日田杉で作った楽器をカチカチと鳴らす応援は復興の力強さを表しているようで球場は盛りあがった。日田下駄の紹介もとてもいい。「林野」の冊子は知らなかったことを教えてもらい新しい発見ができる。

親が大事に育てた山に行ったら。山椒やエビネ・シキミ・オモト等が自生していて私はびっくりした。今まで通り過ごして気がつかなかった事に気がつくととても嬉しい。

（大分県由布市在住）

育ててきた歴史を紹介しました。

学生達からは、宮崎の温暖多雨の環境がオビスギの成長に適していたこと、昔から飫肥藩と領民が協力して植林活動を行ったことなど、飫肥林業の歴史が良く理解できたなどの感想を述べていました。また、甲斐教授からは「とても分かりやすく説明いただいたこと、管内概要の写真と文字のバランスがとても良い」とのお褒めの言葉も頂きました。

当署は、今後とも飫肥林業と国有林の使命を理解して頂くため、体験学習、フィールドの提供などを積極的に行っていきます。

熊本林業土木協会主催で合同安全パトロールを実施

【宮崎南部森林管理署】 9月5日、当署管内において現在開設中の富士159林道新設工事現場において、（一社）熊本林業土木協会主催の合同安全パトロールが実施されました。

当パトロールは協会所属の建設会社3社（永野建設(株)・大平開発(株)・(有)高橋建設）、宮崎南部森林管理署、日南労働基準監督署が出席し、施工中の現場や現場事務所、現場までの通勤路等まで出席者それぞれの視点でチェックを行っていました。

林道新設現場で安全チェック

現場パトロールの後は宮崎南部森林管理署会議室に場所を移し、パトロール結果の講評、意見交換会を行いました。

講評等では、日南労働基準監督署から災害発生状況の報告や法改正に伴う安全帯（墜落制止用器具に改名）の説明、林道支障木の伐倒も多いということで安全なかかり木の処理作業等の注意喚起があり、今回のパトロール現場だけでなく全ての現場に活かせるような有意義なものとなりました。

パトロール後の意見交換会の模様

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物 ⑬⓪ アカシデ（カバノキ科）

山地に普通に生える落葉高木。雌雄同株。日当たりの良い林道端で1メートル以下の幼木を普通に観察できます。

九州のシデ類はアカシデ、イヌシデ、クマシデの三種類が普通に観察されますが、希にサワシバ、イワシデも観察できます。

見分け方は、イヌシデは葉全体に毛が多く、クマシデは葉脈が22対以上あり、アカシデは名前のように葉柄が紅褐色を帯びて、秋に紅葉することで見分けます。

花は新葉の展開と同時に咲き、雄花は前年枝の葉腋から下垂し、雌花は新枝に（上向きに）頂生し、花穂は2～3センチメートルの柄の先に下垂します。

果実の説明について「果実は広卵状三角形でやや扁平、内折れした果苞の裂片に半ば抱かれ、7～10本の縦線がある。」と表現されていますが、読んだだけでは果実の想像は無理のようですが実物を見るとよく分かります。

名前のアカシデは新芽が紅色をしており、秋に葉も紅葉するためです。

みどりの散歩路

今年は、なんと台風の多いことか。台風発生の年間平均数は25～26個というが、台風シーズンでいえば現在折り返し地点あたりか。ゴール地点ではどうなることかと心配される▼多いといえばインドネシアで開催されたアジア最大のスポーツの祭典、第18回アジア大会ではＭＶＰに競泳女子の池江璃花子選手は8個のメダルを獲得し大活躍。日本は中国に次ぐ金メダル75個を獲得し、東京オリンピック・パラリンピックに弾みがつく大会となったのでは▼もうひとつ今年は暑い日が多い。ニュースでも「熱中症に注意」「重傷患者が多数」などの報道が多かった。病院内でも多数の方が熱中症で亡くなるという報道があった。職場においても熱中症で気分が悪くなるという事例も▼熊本では猛暑日が40日を超えたとか。例年に比べ非常に多く熱中症対策の重要性を感じた▼9月に入り業務もこれから後半戦に突入。夏バテ気味の気持ちを引き締めてまずは安全第一。台風が過ぎ、少しだけ涼しい風が吹いてきた。秋の気配を感じながら実りの多い秋になることを願う。（ざ）